

さいたまここに人あり

子どもたちが

「生きること」を励ます



歌手 クミコさん

埼玉県育ちの歌手・クミコさん。これまで、「いのち」の尊さを歌に込め、被爆者、そして震災被災者によりそい、活動してきました。昨年はドラマでも有名になった「広い河の岸辺」をリリースし、話題になりました。今年は埼玉でのコンサートが多数予定されています。クミコさんに、思いをお聞きました。(文責：編集部)

## 息苦しかった高校時代

私は両親の故郷である水戸で生まれま  
した。でも、まだ立ったか立たないかの  
赤ちゃんの頃に川口市に引越してき  
て、ほとんど育ったのは埼玉なんです  
ね。父の仕事の関係で、小学生3年生の頃に  
静岡に引越しましたが、中学3年生の  
ときに、また埼玉に戻ってきました。そ  
れから26歳で結婚するまで、ずっと埼玉  
です。

このあいだ高校の同級生と還暦の同窓  
会をしました。いまとなつては楽しい思  
い出ですが、あのころは私の性格が風来  
坊なところもあつて、なんとなく肌合

わなかつたんです。明治時代からの伝統  
ある学校で、息苦しかったんですよ。長  
い休みの前には、「華美に流れず」とい  
う注意文が配られるんです。それも気に  
入らなくて。

高校は大学に入るための予備校のよう  
に感じていて、早く自分の呼吸ができ  
る場所に行きたい、という思いが強かつ  
たんです。おそらくその場所が大学だと、  
勝手に思っていました。大学には自分と  
同じような人間もいるだろうと思つて、  
早く大学に行きたいと考えていました。

## 歌うことが天職だと思つて

大学に入ったときは、お芝居がやりた  
かつたんです。

小さいころに住んでいたのは静岡の農  
村地域で、楽しみはテレビだけ。NHK  
で毎週土曜日にやっていた舞台中継で観  
た劇団民藝の「森は生きている」に大感  
動したんです。すばらしい世界が世の中

にはある。あのなかに入りたい！つて。

早稲田はお芝居がさかんで、それで選  
択したようなものだったんです。大学で  
演劇のサークルを探しました。でも、こ  
のときはアンケラ時代に突入してたんで  
すね。演劇サークルの部屋に入ると、女  
性が片肌脱いでタバコをふかしていて

…。私はお芝居といつたら新劇の印象し  
かなかつたから、ビックリしました。

劇団木霊という、不条理劇をやる劇団  
に入りました。その劇のなかでは必ず歌  
があるんです。そこで歌つてるとき、  
私、お芝居より歌の方が「生きてる」つ  
て気がして、演劇を辞めてしまいました。

そのころ創刊した「ぴあ」に載つてい  
たシャンソン・カンツォーネ教室に通い  
はじめました。いまでいうカルチャーセ  
ンターですね。最初の日はカンツォーネ  
だったんですが、主婦やOL、学生、み  
んなで「夢見る思い」を歌ったんです。  
歌いだした瞬間、遙か彼方から頭のうし  
ろに光が飛んできたかんじで、涙が止ま  
らなくなつてしまつたんです。感動して、  
感動して：「これが私の天職じゃないか」  
と思つてしまいました。

その後、先生について個人レッスンを  
受けていたんですが、まだまだ自分の歌  
う声を見つけれないでいました。それ  
で、就職活動もしないまま大学を卒業し  
ようとしていたとき…。たまたま大学の  
大隈重信像の前を通りかかったときに、  
学部の友人に出会つたんです。卒業後の  
話になって、「なにも決まってる」とい  
うと、「クミコちゃん、ピアノやっ

たよね。私、バンドやってるんだけど入らない？」というんです。彼女の練習についていったら、ブルースをやっているバンドでした。でも次の練習に行った

## INORIIプロジェクト

2009年、佐々木禎子さんの甥でシンガーソングライターの祐滋さんが「INORII〜祈り〜」という曲を私のレコード会社に持ち込んできました。身内に被爆者がいない私には無理だと思って、何度もお断りしていたんです。でも、「一回会ってみたら」と言われてお会いしたら、被爆者ってこんなに身近なんだと思っただけです。被爆2世の彼がいまも不安を抱きながら生活していることに、原爆というものが身近になっていったんです。そして、「手伝えることをやります」ってOKしました。

被爆65年の2010年、いま広げなければと思って「INORIIプロジェクト」を立ち上げました。佐々木禎子さんの折り鶴が原点だから、みんなに折り鶴を折ってもらい、8月6日に広島に届けようということになりました。

ら、ボーカルの友人が逃げちゃったんですよ。そのまま、私が歌うことになったんです。

このプロジェクトはインターネットで広がっていき、事務所が鶴だらけになっってしまうほど多くの折り鶴が全国から届きました。この「INORII〜祈り〜」という曲に、いろんな思いを重ねるひとが多かったからだと思います。だんだん

## 被災地と「つながる」

歌も知られていき、その年の紅白歌合戦に出させていただきました。

この曲を歌うために、ニューヨークでおこなわれたジャパンデーに参加しました。アメリカで、原爆の歌を歌うことになったんです。

この歌を通して出会った、アメリカ在住で、顔のケロイドの手術でアメリカに渡った原爆乙女の一人である笹森恵子しげこさん。このとき、彼女がロサンゼルスからニューヨークに駆けつけてくれました。それがドキュメンタリーで取り上げられたりして、そういうなかで広まっていたと思います。

2011年3月11日、私はコンサート

のために宮城県石巻市にいたんです。お昼前に会場について、ちょうど地下の楽屋にいるときに震災にありました。古い会館で、ペシヤンコになるな、ああ、私はペシヤンコになる運命なのかとあきらめていたら、幸い大丈夫でした。外に出て、指示されるままに裏山に逃げました。誰かが「水が来る」と言っているのが聞

こえました。

夕方なのにあたりはまっ暗で、雪が降りだしました。その日の夜は、裏山の採石場で一晩過ごしました。とても寒い夜で、採石場の作業員の方がドラム缶でたき火をしてくれました。私は車のなかを出たり入ったりしていました。ガソリンが少なくてエアコンはつけられませんでした。したが、カーラジオをつけていたんです。

「一人のひとはいせんか。大変つらい夜になっています。一人のひとがいたら勇気を出して声をかけましょう。つらい、ながい、冷たい夜ですが、必ず朝はきます」

アナウンサーの方がそういつて励ましてくれました。暗闇のなかでその声を聞いて、みんなどこかでつながっているんだと感じて、がんばろうと思いました。

東京に帰ってきてから、何をやるのもしんどく、うつっぽくなってしまうた



です。そのころ、広島での番組収録のために「みんなで歌う歌を聞いてほしい」といわれていました。そうだ、「ツナガル」を曲にしよう。そう思っつて曲をつくるなかで、だんだん気持ちも元気になつてきました。

ある日突然、理不尽にいのちを奪われた被爆者、被災者が結びつきました。こういうなかで、どう生きていけばいいのか、自分もわからなくなつちやつた。でも、亡くなつたひともしき残つたひともし、絶対みんなつながつているな、と。自分のなかで、そう思いたい。

それで現地に歌を届けたいと、被災地に足を運んでコンサートや義援金にとりくむようになりました。義援金は子どもたちのために、と決めたんです。福島の子どもを支援する団体と、石巻の教育委

## 想像の翼を広げて

震災の年、NHKの「ようこそ先輩」という番組で、川口の舟戸小へ行ききました。私自身も落ち込んでいたときで、どんな授業をやるうか考へて、「自分を励ます曲をつくらう」というテーマにし

員会に送つています。

先ほどラジオに助けられたといいましたけど、いまも毎週金曜日2時46分から3時まで、小さなコミュニティラジオのラジオ石巻に生出演しています。いまを共有していることが、すごく重要なんだと思うんです。仮設の方もたくさん聞いておられますし、「ツナガル」ということなんだと思います。そうした縁で、石巻のひとたちが還暦コンサートを企画してくださいました。もう家族みたいになつてしまいましたね。

いまも、仮設住宅やケアホームなどを訪れています。いま被災地がどうなつてあるか、見てほしい。マスコミにも来てほしい。映されることで不快な思いをする被災者の方もいるというジレンマもありますが…。

した。

「お互いの気持ちを知らう」と、2人組でお互いの悩みを書き出しました。そして、友だちをどうやって励ますか、童謡「チューリップ」の曲の替え歌でひ

## 案内

### CD「広い河の岸辺 ～ The Water Is Wide ～

価格：1,300円（税込み）  
商品番号：COCA-16910  
JAN：4988001763598  
発売日：2014/7/23  
発売元：日本コロムビア  
株式会社



### 埼玉いのちの電話チャリティコンサート クミコ いのちを歌う

- 日時：2015年6月7日（日）  
開場 15時、開演 16時
- 会場：大宮ソニックシティ大ホール
- 出演：八木倫明（ケーナ奏者）、  
クミコと一緒に歌う市民合唱団
- チケット：S席 4,000円、A席 3,000円  
（チケット販売開始：2月2日）  
\*全席指定
- お問合せ：TEL048-645-4322  
（埼玉いのちの電話 事務局）

とつこの曲をつくってってみました。私自身みんなに励まされてきたから、みんなで励ましあおうよ、と。

教育にたずさわるひとにとつても、同じことなのかなと思います。しんどい思いをしている子どもたちを、どうやって励ますか。大きくいえば、生きることを励ますつてことですよ。このさき困難なことがあるかもしれない子どもたちの、雨に濡れてしまっているかもしれない想像の翼を広げてあげることが、励ます、ということだと思っんです。

## 「いのち」を歌って

われて有名になりました。

「INORII（祈り）」を歌ってからの「いのち」を歌うことが増えました。2014年にリリースした「広い河の岸辺」は、被災地でみんなと一緒に歌える歌を探していたところ、訳詞をつけたケイナ奏者の八木倫明さんから紹介されました。メロディが簡単で覚えやすい、「これだ」と思いました。そのころ、朝ドラの「花子とアン」や「マッサン」でも使

この曲の歌詞は、「河は広くて渡れない。でも希望という舟があれば渡っていける」というものなんです。被爆者や被災者、傷を負った方たち、あまりに大きな河で渡れない気がする。復興もそうですよ。あまりに果てしなくて、どうしたらいいのかでも、希望という名の小舟をだそう、と。

先日、仙台のうたごえ祭典で600人で合唱して、本当に感動しました。生身の人間の声ですごいなと思いました。いまは、この曲をみんなで歌っていくことが私の使命。どんなひともしんどいことを乗り越えながら生きていくけれど、この曲が人生の灯台のようになればいいなと思います。

クミコさんプロフィール  
水戸市生まれ。春日部女子高校卒業後、早稲田大学へ。1978年「世界歌謡祭」で入賞。シャンソンの老舗「銀巴里」で歌手としてデビュー。昨年、スコットランド民謡「The Water Is Wide」の日本語版「広い河の岸辺」をリリース。